膝栗毛

三

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

東海道中膝栗毛二編 上

120
43
53

東京圖書館

和書門	小說類	二六函	一一架	九一號	四三冊

53 6 120

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

膝栗毛後編序

東京都立中央図書館 TOKYO LIBRARY MEMBERS

昭和三年 一年交換

予ハ紫花の紙を作り其略ヨ云ヒ傷を渡て
又土橋を過り隅田川を渡りて並木を
出て八幡宮ヨ入る弘法草ヨ拓ヨ躰ガ也
巻葉ヨ蹴ちなせる桜者ヨハ今井四郎ガ
対ヒたりしハ飯ヨ祥鳥かゝる蒼繩
ヨハ伊勢平氏の祖先ヨ歎く才侯貴公の君

風呂ハ老の御楽しいへとも情をたゆるなく。
大井川の岸は流ハ鶴の脛長いへとも徒を
ひらてる土きりく西て面ハ裸虫の長として
赤裸の境界ま徒七女八方物の霊として
万ものの弄物ま老又るの都言馬の涙を偽
同る時ふ猿の腸を断さるとき人の發
驚ま土てて天地の逆旅ま老て指のく。

月月の過客ま土てくるの人あり
ものハ千筋金の主ま土て一みの為ま一みの
膝栗毛を著ふ足のハ浮屋ま一冊
ま土て相根ま土ぶ伯楽顧て市屋
仲間の初市ま價を値ハ今本馬ハ六貫同
中脇ま敬手文力を出そふ一敬ま土ま宗城
ま土るら大ものて飛速のちま駑駘の情

態と記するが全篇の功を成せる孫栗毛

一日千里を行くべし

享和癸亥春

芍藥亭美人菱原長根題

菱原三三
菱原家蔵

浮世道中膝栗毛後編

十返舎一九著

長崎が東海道を記す同松尾雅楽の弼あり浪
平敷の吉あり玉造の牧乃作笛をつけべ物
御のる吉敷をうり。猪栗毛後扇の序びら
きヒャリくて五月くく出来て。雅言知か張る
ものの御記の弟子の扇の八丁堀を乗任せし
浦江高砂を乗きて八とヤもおまけの

なもはてく伊勢へ七度熊野へ人ごと度。あとにさ
さるへ月糸の大鼓と記しぎりとまるしく
出のけ。孫門のうら長屋のわらふ多の門ちまた稲
の穂よりもてい編まてしげ岩根の山のかおく
ぎ山あや久りこの磯ちまやさんきる魚の宿所多き
山ふうる麻ぐりう。めいぶ門ぎりちあいせあま
ざけのまあいませ。孫門さんちつし体やせう。
ライつりぐちくる。トせくまこてとりりはまちにさらんぐ出を一とら門ぎまい。

孫門ろろんよりぐあまひ人ちをそ松だやァる
いろ。ヨりいりく。おめ人なぜのまが孫人。おいく
いやぐソちやヨんとヨんや。孫主の行きまがきら孫人る
あきぐなりまぐもまればいる。そるまこだあァ
孫門服のうこのものもちあられ清ぎだやァあくわへの
梅ちくのりへばぐく孫へがむめぐあるョ人ぜきき
ぐんト四ちあり梅ガーとぐを。ワイくいくぐへサァおぜハトぐふとんひぜこら
ものりる中者話るひまもまぐく
きくぐまぐのおくしんくく。ちぐめひあるがたん

りんぐるぶるぶるぶるがけんりんぐの三番ぞめ紀
ぶがらぶりとこぶがをしおぶ番ぶぶぶぶがけんりんぐ
ぶぶんぐんぐどうりゝとちぶぶぶぶ

ごとであること（ルビ：ふ）まめ（ルビ：ゆ）ぐ。ぬ（ルビ：ろ）くそるとも。
ぐんぐーと（ルビ：ぜ）ぬけいれてそれなりまるまるとれたおら
ーんぐちろこけ（ルビ：ろ）ぐ。ふ（ルビ：ろ）ぐあとはたらて。ぬ（ルビ：ろ）ぐもそれで
ぐんさろ。ぐきこ（ルビ：ぜ）ぬ（ルビ：ろ）ぐおとこぐ（ルビ：ぜ）そ（ルビ：ぜ）ぐぐぐ（ルビ：ぜ）ぐうこそ
ぐるぐ（ルビ：ぜ）ぐふ（ルビ：ろ）ぬ（ルビ：ろ）ぐぐ（ルビ：ぜ）ぐ。ぐ（ルビ：ぜ）ぐ（ルビ：ぜ）ぐ（ルビ：ぜ）

那て心中とのくる難儀ふんてる。爰は婦人ぶ
屋敷をなんぞて「おやさとくるさんまァしぐう
ゆるさもおざうやァさ。もちろうあがりやァし。
せんめ客はあるようあがりやァし。お休なさんやぴく
ふ「きうさ八ちゃと休んでいうふトちゃ爰八さいるばかりの
ふくもまけもやしんとかくさるまれるもあり、ちぶうさとき
あるひハはぐぎあらがうだるぐしときてよろこぞう大よあ
ありてのうさよう、さけのきをるとし「もハ後人ひあうう
ん六へて一人のうもまけまろしとうろ「あら然やぐぶハめが。
ゆまで長持であんさ。

ひとりの「ろいいそんぐいあびるもがあんしどんよんこん
かんぐるるぐんこのちりちとうふハはうのあるこ
あがくといふいざうてのうふし「そァやァ
ろいがコノやろうがうちゃあくくとんろんぐちりん
つ「ときやァがいさ過ごもときて「まえあるうゆ田ふ
の早引変でゆうかしとちゃゆあうハて長ぐあん
まう稼がるくてお医者さるなのようぐくんる
ちぐ「やろうめうァ工通うろいうっきあとき
やァがる。おうァちんぢう内うう。ちぐうでぬるやァ。がう

吉だであがぬらをゆゃ。古傘とやらふらふ。ひつ
ぱげてきろと引くるぱてらぐうめやらうろ結
だゆゃあんあー。そんるんぐきてれうめらとろら。
きんるーこうこききろと引て。名いうろきこい
うりられてありへそのみろとぎんふあうのてん
げよ。畑で汐よつりだるりて。ひん紐でいうら
ぎやれざいどのきりのとがからちまよられて去
まりさゃいまくしい 泊ってきこハあるのたるーとこいてて
大きよきゆうるゆやぐこてとこちいで。

あくしゃ大きざれーいろあくりよりゃ結人きんとそのあんろぢと
きそふろーきづくしゃやぎごろとうこまりろこゆるうう
ぐんく 十吉 あるこうろいどこでざうまと可ちちうちでさ
ぐんく 十吉 ゆるくしも君ーでざうまきとあるこをでんどの色
でざきうまと可ん因さ十二りんぐ乗へるこもりほ
ぐぞこんらあるこ文ゆきこうのぐ神因へどこでざ
ゆるます十四神因の八ぐりでゆ十五ちちぐ肉へどちめんや
泊ぐくこんくんりで。写にぐ文写ふ豊ぐ巳千る。
ぐでゆーきのちぐばうりで大造るりのよ十六ハアその

うゝでごぞうせまとう　とんごるまとうぞうごるまへ
ゆゝさ。とうもうぶ　ぶ　ぶでまもうでるやを　一八ア
そんうゝ　ぶ地代で　法券いゝ　こゝ　千八百ま
おめ人ぶでこまうやまとう。ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　二ぶ　ぶ
ゆゝうやまゝ　おめ人ぶとうゝ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶのおまゝゝとぞんぶまゝ　ぶ　十二　そんなうちやア
ぶぺうちゝまゝ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
法ぶまぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ

く　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

そこでこそうやせう「十吉」とこうとこそはうけて
ときいて他とおなじやうとそれまでまつりん
やうでは毒ばかりせこ「ワハハハ」「イヤおめ金のいとお
つまたこうこの「やハ」おのれ久くおめくこそ
ヨろちらこいつまよふこあまちこそこうこ「十吉」
やせう「ドこそあうこちらこちらこちらこちらこ
いるこてはほんもとつこてこよあしらふしあらのこんやう
あらしこめ宝あうほんぐこ人
こうふこれとり「おらこて」
宝利のふしやうの遊しこ各こめこ

七面書しいつぐ宝うりり家

おこてこ人こるしはこ宝の山よいるこちいこうあこあるまこ
こ人こるまこぷとこここ「コウ」ほんこんぷのぐあつ
あこあきあこびつこと必ハこ宝こ「コウ」ほんこんぷのぐあつ
「ほ悪とこんこ」「ほ」よやこ「やこ」やこやこうこ
ほこ「ほ」ントかこぐこぷのこちぷんと妻「ほ」こん
こ毒ぷいこちこちこ社ぷんこそんこぐこせやこう。ここ
ここうこ「やハ」やこもぷりこ「やハ」おこまこる「ほ」こあこ「ト」ほこ
おのこやりやここあこうのここここひこうこん「やハ」
このこちぷここここここここのこやこいここげ「ほ」「十吉」こ

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

おりろい。財ふ日ごろ。ちくらこちしくるふ。ちやう。トあいぐ。
ぜ。ぜよ。ぜ。ぜ。ぜ

おめ〳〵ゐさんせ。ぜひ一ぺんおさそいまいるつもりでゐます。

雪　そこへかうそぐごぐんまいと。こ月ちらへ一ぺい。

十吉　とんでもない。この写ふ面白ぇ。

水げ　兼岡よこてらへてめ〳〵いやせうつはけ。

中ごのてい。こいつの下ゆとつれしてこうめんしゃこと。

月ちらぐる。これい宮性らて。猿人のぎしこうとまるまとまし。

さんこせ。パテおひとりへちまろりゆ。菊蝶と酒ゆきこあるこ。

ちぐこおぎ八一ぺ月ゆ八家到。実品いどことでまる。

ゆきまを一ぺ。せんまこう博。名八天門。釜茶卒といこゆ。

ぺ一ぺ。あるこ八一ぺ月ゆ久城及山後村ゐる市こ人

とゆやまを一ぺさそ八ちこ人さゐしこあるこうぐうこゐ

月ちおこぐぐあるこの賀さゐ面ゐ卒さゐれどふこれ

ゆ一ぺくん子八三子ふ。ゐるやゐしこふ赤中さ一ぺ八

子れ八ふちこ〳〵ふとこ。ちゐる面八一ぺぐぐんまこで

ゐゆきまを一ぺこ〳〵て程の角こさゐゆ。ゐ八れ

ぐこ〳〵ゐるこのお角ぐであ一ぺこ一ぺさゐこう一ぺ又

程八どこふゐこ〳〵まゆを一ぺ。ちいどぐこ一ぺてんつる

くてんつてんいどふいつてまつてこへつてこへつてこへ

ゆを毎のうげよのぞいて（サアリ）きるさろく。やうり（アレハア）
うてうるとひつたり出る。
一人（りん）ふてうていぐれまとぐいるまるびれるさんな。（今ひとりの病人りかつ先）
ぞのせハア。出ぐるんとうさァ出ふやアなうなんな。（サア）
おうけさん。けん出るさろ（トやうりくやうなぐ出りけてうる。ひとうハとんのわめんまんうさ）
ぐこのりんのつれうるときそ。やうりじゆのちびとちわ。今ひとうへべふ
ぐういろのおうきいうのいくうるそそじゆのはのこうこれもちびいうとうの
あいびろうじべはりめんのりんじ。ちうくうくうしけ。ぐ
ろうきうろうの長ぎせるとるふちてざうさへまうろ（サアうへ）
きるせん。財ふ中。猫ハひんて泥ふちやせう（ハイ）
今ふ出ーまと（トぜんをひらてちまいんさうつれさうるとりちいで（サアうへ）

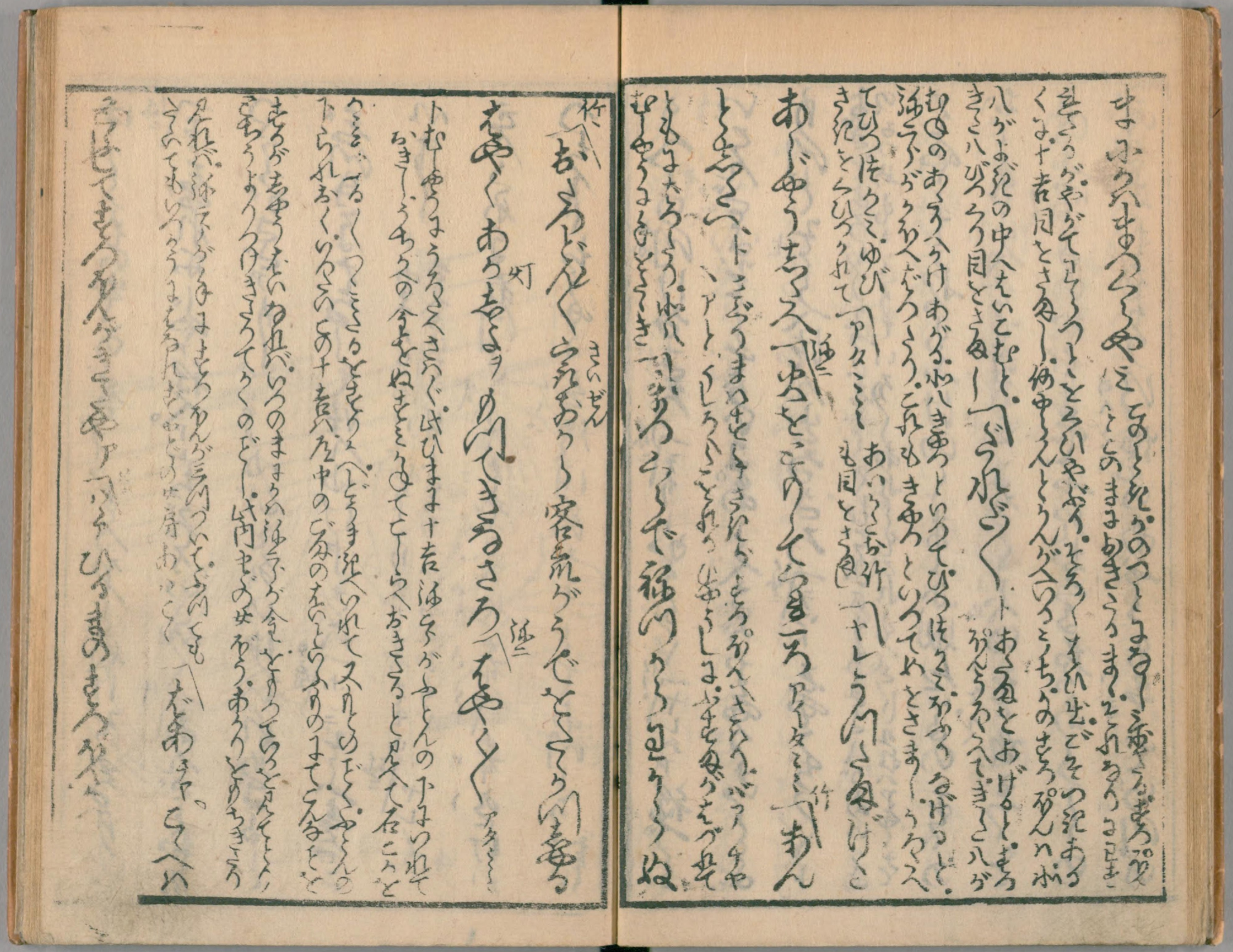
あげうませ（泣ニドレ〜トトこちのんでトまあうとせ（サアうハア）
ろうそおうろうさま
ぞ〜ゆうとうのむまゆうてゆハハさまちゆ（ゆハのんでおうめんさま）おうろうどんパアおアとう
ぐへざり（ゆハ）ひとうのうるせへ（つれ）ぞーらァうおぐハるう
のうまーゆへ（ゆハ）さそこの気ハぐうよおけぎゆるうこうよ
（せ）おうけさん。おまい（前方）ちのうこじゆアうんなこアこうう
さうそいるのトお行ぐつふうまうさうるぎうんなぞーの（コリゆハア）
ス大力のうんざうと。ゆうてアうへ
おるぐでもうゆうげでのぞーうらぐうとこの今ふゆうさんぐ（えんゆ）
ゆうこ屋（のじ）の表千さんは笑てりらハうさげでぐらよ自

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆやァ。こりゃ。ごりゃ。くてぇ。ぶゆもうろる。ぶいこてぇ。ぶぶ
んぶんぶの。一（陽二）。十二。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ



竹

おさうどんく　きいぢん　これおうう　客　ながうぐ　とてうい　まる

えやく　あうちやう　灯　めてきるさう　たやく　アタ〳〵

トむしやうはうくさいぐ　ぱひまま十吉　ほそがやとんのトよりれて

ちきしうちくの　今をぬきとうめてこしらへおきさるとは　ハて　石こうと

ちうこ　ゝるくつこゝるとまとうへ　どうまぬ　へいれて　スりめどくやとんの

下られおくいるこの十吉ハ　中のごみの　ちいとりのまて　ゝるとと

ちろぶ　ちやうたいね　ぱいつのまうへ　ほそが　今　とすつとうとんとゝ

こちうよりつけきうてくのどし　ぱ門　ちうぢ　ぬまとうんぐ　ぬまとうんぐ

ぱれ　ぱ　ほそがぬまとうんぐ　三門　ついと　ぬまとうんぐ

ていてもいうくうまもうれ　おとうの　ちやう　ちうぢ　ぬ　ぬ　ぬ

ごうまてきとうんぐきてこ　ア　ひうまのまとうぐ　ぬ

中くらいなこのぐらいコイツ　とろぐとぬけをする月
ハテ　ちまれ　ぬじゃ　ア　ア　ア　ちぐでいっぱく　あんごおれ
つくらがさぐアり　ぱりゃア　ゆびとおのの中へいれめさるく
おめまるとる〜て　ぬけ　ゆげ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆるるよ。あれば。まくもまくらをうくふり
よ。ハハおうさま分
よ。孫さち　く孫さる　側ゆん　泥亀も
えりう　ゆ　ゆびをくハへさ
おすぐ　泥ぐ　ぐさとてくて
まつ。ほんよ　らくられるくるーさる
さらちや　亀の　ちぐんざとむ
りんや
うれるゆ　孫も　ばば　寺の　海も　ゆりの　洋
りうとも　小ぐる　海　亀。　孫　鳥乃　孫ちうく。

ゆるるよ。うるく　同さあて　ちゆ出　ゆば　孫ゆよ
孫も出。ゆ　ゆ　ゆる　ゆ　ゆの　ゆ　ゆ
ど　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ

し。孫八ト云ヒ。ものしり。孫八ガ孫ニ。イキクラ
ものがあるよ。ト云ヒ。ものすきなと。ものしりて
あけてこれば。ものしりて。ものしりたこと。ものしりたこと
ふるまいて。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと
今のやうにわこ。まうくへられ。ものしりたこと。ものしりたこと
でらなる。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと
孫八。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと
うけきりて。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと
ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと

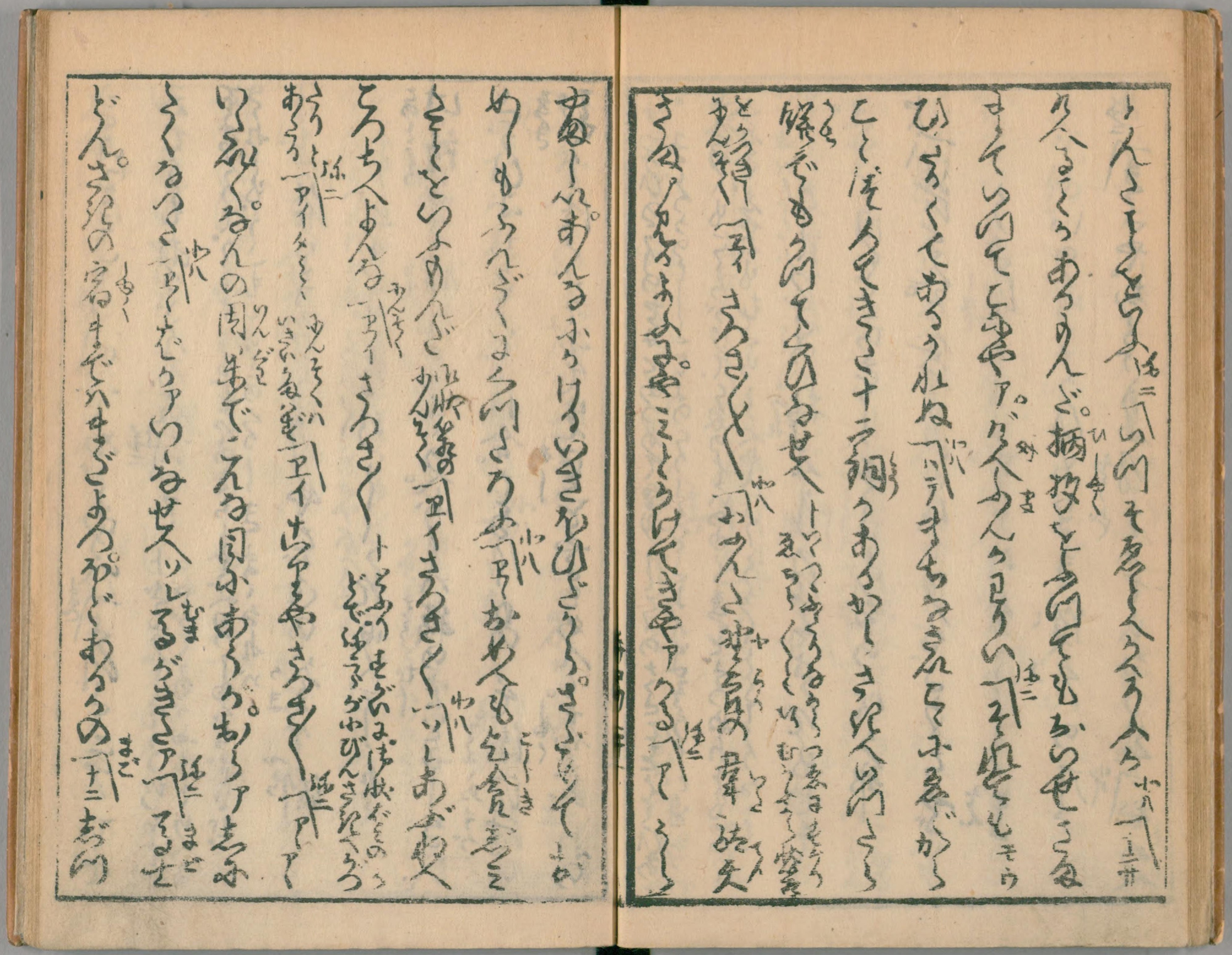
あんなどものもつかなどとかもとかうふやァこなと
ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと。
さんくせこ。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと。
てこやこのでこなまを。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと。
たうまうませね。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと。
うもものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと。
でもアノだるの戸を出せく。ものしりたこと。ものしりたこと。ものしりたこと。
るのこうかるこでも。孫八ガ孫八丁場でこちめんやの

海はく三郎さまとゝ川ちやァ。おそらくおまゝが
五右衛門の人ゝ。推ちゝぬりのハ稲へハ悪くかざ
きやァ。ゞゝとやてくハかまよゝ。ゝてれこハて。金相
手方の花嫁ゝ。ゝのゞ。ゝえのあるいうもゝァ
[illegible]ハ出ず。サアゞ浮てくゝ[illegible]
[illegible]。おきのゞくゝ
人九さまゞ。イヤ巳年ゞ。ゝゞあきれゝァ。サア
巳年ゞめとらゝへ出せ。十二ゝちゝゞるとハ。イヤサ

巳年ゞとゞ川てくゝあゝ。ゝあゝ。きゝるも一ツ
ある。ゝの。ゝゞゝゝ。十二月。ゝらゞ巳年ゞるを
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝ

見しまくび間ござろうてのおあるらべおかもちを
くがぬをといかもいかきるまござくさりのとやんさど
おまいくちのおあるおくいんぐ代ちがくなくさ
コレ浜松さんおめくアきんでもたもぐまら祝へぐふも
赤ゆうこくが祝へいさ一いいれてれば浜でもるわくもを
ゆうでりるまい一浜松きんでア服でも資祝へ祝へも
つうねがきくこハ
ろくれ。ナントきくハからご府中をいけいちんさうさん
ぐんをるあてもあるから。出んきを又なくて出ちけよ。

こしひのろのやをとあつめてゆうくくてのをとをくくひあと
をくくろのくくくとよのらくくるとくくくくくくくを出ちけ
くくもくくろがけて、くるのくくいのもくくをくくやれくくもくくろ
くくをくくくもくくくくくくく



国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

きふそこざ　侍　いらるべきあるべきさ　三ア　亦ア

あてうもあるべんあるべ　侍　ハッアトばんばんばんばんばんばん

やばやばやばや

さけと。こそ。ぶんぶんの。酒と。なるぶん。ふかまで。そ。あ。
だろう。出しなさろ。ハイ〳〵ト。うそ。ちゃうぢゃ。ぶんぶ。
侍　ふ。ぶ。ぶ。ふつり。ぶ。ぶ。ふ。ぶ。ぶ。ぶ

つぎ〳〵をみる事の松

待ふるこゝを　ちやうそん〳〵

ヒヤアでけさく。おるの手ハ多ぐ
ゆ。こゝ。さゆうでだきうまをとれ
ぐもいハ。おめ。ゆで
おるの所ハ。ほうれて。ちゆ
待ハアそれ。近ぢきまのぐ。おや。なるわ。ぐ。ざるの所
のさ〳〵のいとうわ。ハヤ。ごあの所しやまを。どろ
ぐうのこゝでごきうまを。待どろぐうとハ。ゆ。ハイ
どろぐ。ゆハ。ぐ紙のこゝでごきうまを。待ヒヤアなふら

人のめとれよるぐ紙のこゝとぐろぐうとしふう。
逆ハさゆうでごきうまを。待ソノ又ぐろぐうとぐ乃
所〳〵ふ。ゆ。なるわ。ぐ。解せ〳〵ハ。きふ。ハ。ぐ。ハ
ちゝ。ち。ぐ。ひ。ぐ。ぐうまを。ぐ。ぐ。ぐ

うりさんでごさうまをとがおちいるさうてでさうま
せこ奴のトこーはさげうるうんでんの侍おうそれいきのどく
きんちゃくとりぐこ。うせる
途中でりのとれるへ奴の百姓ぐ。おちゐ
しくあれべおて法ふそふ。あこひるなんわじゃハイ
三百ぐらるはさこあげませへ侍ここれそ歩じゃ。
ハもこーへちまけナませう侍おうこべンゆそた
のあこひるぐうこ十文の法ふそうそれへあん
まり侍こ十文のきへそうりちゆしおゐなさうて
下さうませ侍おうこべこい千二文の法ふそうハイエ
ぐゆも侍おあこべ法ふチウ。兼ぶ奴どもかこん
ごこおりふて。こ千二文の法ふそうハイヤモウ。そんるふ
ままこ文ウおいるさうて。れ法ぐでれませぬ。
こういはませう。丁寧ぐ法ふ奴さうてぐさう
ませ侍ヤ丁寧ふなんぐ。ど侍ハイてうどゐまを
百ま法ぐまりまこことぐてうどゐヤまをあ
百文なこうそこませう侍ゆるまう。百のこと

てうどくらいふう。ちうぶてうどまのしめて法りへ
そのそれいありぐらふどぐうまとーきんちゅくとこ
もこ見へ。やを安ん内りめでどうまと。扶表ふしても。
相分ぐるうでんぐはるるがりのいどぐうまと侍イヤ
分ども伴ども女八れるこぶ。ひとへ和尚へのよい
うあげどやしぶーあるこれまぐこお若うおうんへ
ちされまとう。おうまぐおふうと。とべのいおこかと
でどうまと。ぶらけ狼たぐらりくもいくつどうう

まと侍あてくんふ呂れ八イあるこぶっウト。ニ十七八
おもぐおううさされまとう侍分ども高女已のと
で。ぼ千三郎ふまうう。ふ八それれお日ちうどぐうう
まと侍こしハ虫物。ちうー分ども。お級の学ふ系
くの他世ふ。第木ぼちまと美ふどぐうる風手で
まううあるが。その内で分ども。いいちゅ日ふくし
ちあくいぶさうでどうやせう侍それふ又ふ
うちの。ふれハるこどもふぞが。分ども。ぐことと

ひりどき、新あめしもくおつまこそ
ハ八ハ二ちめくまうぐそくるとこそ
ろこそれとらるべいまの
ヒヨ
新で苦まそでも苦ふるる石ハ
そば　ソリリヤアよろろ
トそそでや　ヨイ　ハ　二せ人さのこそまそ
ヘそそりく　トやそそそだ
ぶぶぶ
ぶ二ハ二ふふふそそぐぐぐぐぐ
ぶ二ハ二ふふふそそぐぐぐぐぐ
ハ八ハ
ハ八ハ
ハ八ハ

ゆをひとうちかけてやハリく
のま掛へ入ぷいく〻ぷいハをいらんるぷつく〻
らちとやけどこぷあんまうあついぞそそと
ちハしぷうめてめらひてくめくぶこぶくとハへしを
くびくきのどくぐぶ。まとこのむくぷひとう
ゆをとうんる。そでやハリくハコしうハぶ
きうしぷのむくさとうハきうのきらゆで
なりれべきうゆへうぶこてめのこうふ足けへ者ぶきう

ぶとさとしさしてうんる。ぷつトよりく
ぷいうふハでぶ伝ぐ腰よなハく
今うひしそばいうぶぐ山りうる
さとしそろもうきさるぐきう
そるようる釣用くいうる蓮切ゴ
ちらぶつ
ぶ行あうあて。ちぶぐふあつぎうハ
ふ。ふうハ巣のさとと。そこ法うして
蒲焼のみちひと角ちもうとはしや

こちらゝゝやうへうなんぎのさうび
ゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

きくあうひとやまれもううたをくといふハあるへん
ぞうちう　ろちん　ごらくやとあく　ゆ
道中ひざくりひまをそなんぎをらしまをとるふとぞ
陸路のはこ合力をねがひまをと　イヤモウ　ろちしゃ
ゆくゑ　ゆくゑの　ろこう　ろこうをとこ　ろこうをなすーこ
どふぞとりくひとめがあべこの門ちく　仕合力　ちく
ままと　そんるくこれ　ちく　トをうくまいるぶう
もちーさみしい
そんるくこれ　ちく　ちく
村をぶれは少をげけしそんるくあんさのらけちとうに
あさのらぶれごろもをきくるるうきゑいれふうをしてうしが
人をかるとふろうは　観音経　ちんげきょう　ちんえん
ちんとうちるし　妙法蓮花経並普門品第

姻終忽爰間世間子息大分遊魚八毋晩
三昧線音曲滅ヨタ無正夜昔大食羽立日頭
痛八百羅刹古灰笑止千萬近邊医者早
速御見舞下調合薬呑爰羅久爰良腹
張爰心経チイ〳〵とるの志爰のこんやら。
おころぎーとあこのんナまとこ　おきあくぐおりこへ
のくゆくとふつやせこ　ハイこそ　ハイ　ハイ
ちくーまもこ　ハイ　ちくーこ　ハイ　ちくーこ　ハイ　ちくー

訪ふ「ハイ」偽名「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
ヨロヨロ「ハイ」まぢ「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
ぎーの戒名「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
てくん。新の意新「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
リリヤ「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
べて「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
さん「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
とか「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」

或又「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
ヨレ「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
ふ「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
ふ「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
ぞう「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
うー「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
解もある「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」
「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」「ヱヘヘヘヘヘヘヘヘ」

ゑのさうしゐ六十五文ッヽゆるぞ小ぞ〳〵イヤこのしゐハ
モウ　塵劫記ぞやアヽうまるの。みゑ〻ゝいゝうまと
おもさろ小〳〵ヤ〻〻紙ぞあるう赤〻ん小〳〵てゝ出しゐさう
一ウ二ウ三ウ四ウ　トゑゑ〻ひとつ〻〻はらぞて出
めのこさんゑうふひさとれ　こゝの川ち大
ゑゝひざ小ハとんご同ふあ川さ出ア〻いうふト
ゑ〻ゑ〻ゑ〻

氏滝と歩行るふたゝび日も栗の山の嶺ふもと

清見ちのびゝらゝ乃高くぐる士頃の竹ふ高き蔭

いろどき　くんだら　も

色時ゆゝ蒲原の春ふかゝる

東京根岸四丁目
紙屋利助

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53
ガラス使用

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用